

11月になりました

校内の木々は色鮮やかに紅葉し、街路樹の桜の木は葉を落としました。いよいよ冬支度です。

<朝の体力づくり>

一面緑に覆われた校庭では、朝の時間帯に体力づくりの授業が行われています。1年生から3年生まで部門や学年を超えた縦割りグループでの授業です。歩行をメインにするグループやゆっくりジョギングをするグループ、短距離ダッシュをするグループと、生徒の実態に合わせた活動をしています。芝に覆われた地面を実際に走ってみると、ふんわりとしていて、足取りが軽く感じます。見ていると生徒たちも走りやすい様子です。

ある時短距離ダッシュをするグループでは、先生が手本を示し走っていました。そのスピードに、生徒たちからは歓声が上がっていました。また、別のグループでは部門を超えて生徒どうし一緒に整理体操をする様子もあり、頑張る中にも和やかな雰囲気伝わってくる一時でした。



学校の裏山

<言葉を伝えること>

日記や作文の指導について、以前先輩の先生から教わったことがあります。

『子どもたちが文章を書くということは、自分の思いを紙に固着させること、そして書いてくれた文章を読むということは、子どもたちの思いを掘り起こすということ。』

電子メールがなかった時代、電話以外のツールは主に手紙でした。手紙を書くときは文字を間違わないように、わからない文字は辞書を引いて調べて書きました。一文書くと読み返し、文章を書き終えた後もこれでよいか読み返し、相手が読むということを考え、言葉の使い方に気をつけて書いたのを思い出します。そしてポストに投函するときは、明日届くかな、明後日かなと思いながら入れたものです。

今の時代は、メールを使えば瞬時に文章を送ることができます。心の中に留めておいたようなつぶやきも、不特定多数の人に伝え、共感を求めることができます。これは時代の流れであり、便利でよいことかもしれませんが、しかし、言葉は両刃の剣、使い方によっては、相手を傷つける道具になってしまいます。こんな時代だからこそ、言葉を大切に、言葉の力を信じていくという姿勢は、これからも持ち続けていきたいと思います。そして日々の教育を通じてそれらを生徒たちに伝えていけたらと思っています。

副校長 小川